

第2学年 道徳学習指導案

1 主題名 正直な心

2 資料名 「かびんがわれた」(1-(4)正直・誠実・明朗、大阪書籍)

3 指導観

- 本主題は、うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直で朗らかに生活する児童を育成することをねらいとする。正直・誠実・明朗とは、自分にうそや偽りがない素直な生き方ができたり、他人に対して真面目で真心がこもった振る舞いができたり、また、こだわりをもたずに明るく朗らかに行動できる姿をさす。

本資料は、主人公が花びんを割ってしまったが、わからないようにごまかして知らないふりをしてしまう。ところが、自分が割ったと思いこんだ友だちとそれを取り囲むクラスメイトとのやり取りを聞きながら、主人公が泣き出してしまう話である。本資料は、自分が割ったことを言うか言わないか迷う話である。正直に言う行為には価値が含まれるがその実現が難しいことから、子どもの心を揺さぶる上で効果的である。また、このままでは友だちが割ったことにされてしまうことや周りの友達から非難の目にさらされていることから主人公の悩みを大きくさせていることを模擬体験することができる。よって、本資料はねらいを達成する上で効果的と考えられる。

- 本学級の子どもたちは、明るく元気があり喧嘩をしたあとには素直に謝ったり、友達を許したりすることができる。しかし、いざ自分が間違いや失敗をしてしまったとき、黙っていれば叱られないという気持ちが強く、正直に言いだせないことが多い。うそをついたりごまかしたりすることによって暗い心になってしまうことに気づいてはいるが、正直に言うことで心が気持ちよくなるということに気づくまでに至っていない。また、自分がしたことが他の人の責任になっていることに対して、どんな風に切り出していいのか分からない子どもが多い。

このような子どもたちにうそをついたりごまかしたりしないで正直に言うことの大切さに気づかせ、素直で朗らかに生活する態度を身につけさせる本主題はとても意義深い。

- そこで、本主題の指導にあたっては、うそをついたりごまかしたりしないで正直に言うことの大切さに気づく子どもを育てるために、動作化や役割演技、模擬体験を取り入れた授業づくりを進めていきたい。

そのためには、導入段階において、花びんを割ってしまったときの気持ちを想像させるために実際に花びんをわってみせる。

展開前段では、花びんを割った主人公がごまかしをする気持ちを考えさせるために、動作化をして、主人公の気持ちを共感的に捉えさせる。その後、自分が割ったと思いこみ正直に言ったまさるくんやその周りにあつまったみんなの話を聞いたり様子を見たりしていたわたしが、正直に言わなければと迷い、急になくなって泣き出した気持ちを考えるために役割演技を位置づける。さらに、自分と他者の両者にとって気持ちよくなる親切を身に付けさせるために物をこわした場面を再現した場で模擬体験をさせる。

展開後段では、正直に話すことで朗らかに過ごすことができることに気づかせるために、うそをついたりごまかしたりして暗い気持ちになったときがないか自分の生活を振り返らせる。

終末では、より良い生き方をみんなで共有するために、嘘をつかずに正直に言えた教師の体験を

語る。

4 本時の目標

- 正直に言わなければいけないとわかっているけれど、それができないでいる状況をわかる。
- 正直とは、どんな状況でも本当のことを言わなければならないことに気づいている。
- 正直に言うことで自分もみんなも気持ちよくなれることに気づく。

5 準備

教師: 黒板掲示物、挿絵、花瓶、道徳ノート、まさるくんたち(背景絵)

6 展開

分	子どもの学習活動	教師の支援活動	目標の達成度を見取る評価規準
	<p>1 花瓶を割ったときの気持ちを考える。 (めあて) しょうじきに言えたらどんな気持ちになれるだろう</p> <p>2 資料を読んで、主人公の心情について話し合う。 (1)資料を読んで、主人公の置かれている状況について知る。 (2)主人公が「だまっていればだれも気づかないわ」とわからないようにのりではって帰るときの心情について推し量る。 (3)主人公が正直に言おうかと迷っているときの心情について推し量る。 (4)模擬体験をする。</p> <p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>4 教師の説話を聞き、実践意欲をもつ。</p>	<p>※ 花瓶を割ったときの気持ちを考えるために実際に割ってみせる。</p> <p>※ 挿絵を効果的に使用することで、主人公やまさるくんの気持ちを想像しやすいようにする。</p> <p>※ 動作化をさせることにより、状況把握に役立てる。</p> <p>※ 役割演技をさせ、主人公の気持ちに迫りやすくする。</p> <p>※ 役割演技をさせる際、主人公になりきれるように背景にまさるくんたちを用意する。</p> <p>※ 正直に言えると自分もみんなも気持ちがよくなることを理解させるために模擬体験を位置づける。</p>	<p>○ 花びんを割ったときの気持ちを表す言葉を発している。 ・やばい。 ・しまった。 ・かくさなきゃ。 ・なおさなきゃ。 ・正直に言わなきゃ。 ○ 資料を読んで、花瓶を割ったとき「どうしよう」と思ったり、「だまっていればわからない」とごまかしたりした主人公や、正直に話したまさるくんの気持ちに共感している。</p> <p>○ 正直を実現したいと思う台詞が言える。 ・正直に言わなければいけないことはわかっているけど・・・ ・まさるくんに悪いな。 ・このままだまっていたらいいわ。 ・よし、本当のことを言おう。 ○ 模擬体験を通して、正直に言うと気持ちがいいという心情を表す言葉を発している。 ○ 正直に言うと自分もみんなも</p>

			なも気持ちがいいということ を自分の実体験と結び付けら れる。
--	--	--	---------------------------------------